

令和4年度 子供主体の保育普及促進事業 概要報告

狛江市 社会福祉法人純生喜狛会 一の橋赤ちゃんの家



片道35分のお散歩でも、子供たちがおしゃべりを楽しみながら歩いている姿。



保育者が持っていった砂場道具で遊ぶ。自然物も使いながら遊ぶ姿があった。



その場にある自然物で遊ぶ子供たち。遊具がなくても遊びが広がる。



友だちと一緒に力を合わせてススキの穂を取ろうとする2歳児の姿。



地面いっぱい落ちていたどんぐりを夢中になって拾って楽しんでいた。



公園の植え込みは迷路になり、お家になり、子供たちの大好きな場所に。

活動のポイント

- 1回目 ● 遠い公園までゆっくりとおしゃべりを楽しみながら歩く姿が印象的な活動に。目的地では、グラウンドの真ん中に保育者が砂場道具を出すとその場でまずはひと遊び。大人の誘いで落ち葉や植え込みのネコジャラシでのお店やさんごっこ・ままごと遊びに発展した。
- 2回目 ● 多摩川の広場へ行き、枯れ草の小山を見つけて上り下りしたり、稲科の草の穂で遊ぶ子供たち。2歳児が友達と一緒になかなか抜けないススキの穂をみんなで一緒に「うんとこしょ・どっこいしょ」と引っ張る遊びに。最後は大人も加わり、抜けて満足そうな子供たち。
- 3回目 ● 園の側の公園で、じっくり遊び込んだこの日。地面一面のどんぐりを拾い集めることに夢中だった子供たち。保育者も一緒にしゃがみ込むことで、子供たちも側で安心して遊びに没頭していた姿が印象的。植え込みの迷路では嬉しそうに行ったり来たりする子供たちの姿も。

担当アドバイザーによる考察

活動中に見られた子供と保育者の変化と効果

- 「何をしたらいいかわからない」「子供達が飽きてしまうかもしれない」そんな思いから様々な遊具や道具を用意していく保育者が多くいましたが、「子供達自身で遊びを見つける力があるんだ」という気づきにつながったようです。
- 子供達は初めは「せんせいみて〜」「おにごっこして」と保育者を介しての遊びが多かったクラスも、自ら自然を発見する楽しさや工夫して遊ぶ面白さを体験し始めると、子供同士で遊ぶ姿が増えていきました。

取組みの意図について

- 「子供主体の保育」を行うことに難しさを感じている保育者のみなさんと、自然を活用して、子供たちの発見や工夫が生まれるような活動を一緒に考えていきました。東京のどこにでも小さな自然はあります。その自然との関わりの中で子供たちの心が動いている瞬間を捉え、その子どもの姿と一緒に喜び時間として「保育の振り返り」を行いました。
- 「何をするか」「何をさせるか」よりも、まずは「何をしたら楽しいかな」と子供たちと一緒に楽しむ心を持って欲しいと思いつながりました。保育者自身が「今日の活動、楽しかったね!」という感覚が大切だと思います。自然を活用すると、その感覚を体験しやすく、子供たちとの間に共感が生まれます。保育者が子供と一緒に楽しんでいる保育は必然的に質が上がると考えています。



令和5年3月発行
令和4年度子供主体の保育普及促進事業 概要報告(リーフレット)

※活動内容の詳細は「令和4年度子供主体の保育普及促進事業活動報告書」をご覧ください。

〈編集・発行〉
東京都福祉保健局少子社会対策部保育支援課
電話:03(5320)4130(直通)

事業目的

東京都では、自然を活用した保育の中で子供の主体性や想像力、思考力などの「生きる力」を育むことを目指し、令和元年度～2年度に「自然を活用した東京都版保育モデル事業」(以下「モデル事業」という。)に取り組んできた。今年度は、モデル事業の考え方を踏まえ、都内保育所等へのアドバイザー派遣や、広く都民に向けた活動報告会やシンポジウム、保育所等職員向けのセミナー・交流会を開催することにより、子供主体の保育への理解を深めるとともに、保育の現場における実践及び保育の質の向上につなげることを目的に事業を実施した。

事業内容

■アドバイザー派遣

モデル事業に関する専門知識、ノウハウ及び経験を有するアドバイザー(以下「アドバイザー」という。)を都内保育所等へ派遣することで、子供主体保育への理解と実践を支援。

アドバイザー



野村 直子さん
一般社団法人
new education Little Tree 代表



久保田 修平さん
一般社団法人
new education Little Tree

実施内容



事前打合せ(現状把握)



導入研修(目線合わせ)



活動同行(1～3回目)

園長と担当保育士から、園の様子や考え方について、基本情報の聞き取りを行う。現在の保育指導の様子や、保護者との対応など、園の課題や不安などを聞き、今後の事業実施予定について説明。

アドバイザーによる導入研修。子供たちとどのように向き合い活動しているのかを聞きながら、園の周辺にどのような屋外環境があり、どのように過ごすかを、一緒に考える。

近隣の公園などでの活動に同行。活動終了後に、保育者との振り返りを実施。

■取組参加園

区市町村名	取組参加園名	施設種別	実施クラス
渋谷区	ほっぺるランド渋谷(株式会社テノ.コーポレーション)	認可保育所	3～5歳児クラス
練馬区	にじいろ保育園石神井町(ライクキッズ株式会社)	認可保育所	5歳児クラス
江戸川区	ポピンズナーサリースクールー之江(株式会社ポピンズエデュケア)	認証保育所	3～5歳児クラス
小金井市	小金井けやきの森認定こども園(学校法人村田学園)	幼保連携型認定こども園	5歳児クラス
狛江市	一の橋赤ちゃんの家(社会福祉法人 純生喜狛会)	小規模保育事業	1～2歳児クラス

■活動報告

アドバイザー派遣により、どのような変化や気づきがあったか、参加園ごとに振り返りを実施。参加園の保育者等とアドバイザーの話し合いを通して、子供との関わり方のポイントや日頃の疑問等に対する助言等を行った。



■シンポジウム

アドバイザー派遣参加園の保育者より活動事例の紹介を行い、有識者から助言や意見等を伺うとともに、アドバイザーと有識者によるパネルディスカッションを実施することで、子供主体の保育に関する理解を深め、普及啓発等を実施。



宮里 暁美先生
お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション寄付講座教授

汐見 稔幸先生
一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事/東京大学名誉教授/白梅学園大学名誉学長

■セミナー・交流会

アドバイザーによるセミナーや、グループ討議などによる参加者同士の交流会を実施。日々の保育の参考となるポイントや具体的な事例紹介等を通して、具体的なイメージの醸成を支援。



活動報告、シンポジウム、セミナー・交流会は、東京都福祉保健局ホームページで動画公開中! 子供たちとの関わり方など、ぜひ参考にしてください。

福祉保健局ホームページ
https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/koho/kodomo_syutai.html



参加園での取組の様子

渋谷区 株式会社テノ.コーポレーション | ほっぺるランド渋谷



保育者が虫に触れさせたい一心でバッタやコオロギを探していた。



藤棚のツルが伸びて、子供がちょうどぶら下りやすい長さに。



前回背が高かった雑草が刈られていた。同じ場所でも季節によって変わる。



虫かごの代わりになんとか葉っぱでお家を作ろうとしていた子供たち。



子供たちよりも背が高くなった草の草むらで遊ぶ子供たち。



毎日体操をしている近隣のおじいさんにこの日初めて関心を持った子供たち。

活動のポイント

- 1回目 ● いつもは長縄などの遊び道具を持っていく公園へ試しに何も持たずに行ってみた。コオロギやバッタを捕まえたり、木登りや落ち葉遊び・鬼ごっこをする子どもの姿があった。子供たちのバッタの扱い方を見て、保育者自身が生き物の命について考える機会となった。
- 2回目 ● 春以来で訪れた公園は草が伸びて様子が違ったが、季節の変化に刺激を受けて、自然遊びが広がった。藤のツルを引っ張ったり、背の高い雑草を抜いて自分たちと背比べ。どんぐりなどの木の実拾いからおままごと遊びも始まり、没頭して遊ぶ子供の姿が多く見られた。
- 3回目 ● 同じ公園でも雑草が枯れ草になり、前回とは違う木の実が落ちていた。子供たちはその場で見つけた自然物で遊びを広げていた。また今回初めて近隣のおじいさんに関心を示した子供の姿に保育者も驚き、地域の人との交流の面白さを感じた活動となった。

江戸川区 株式会社ポピンズエデュケア | ポピンズナーサリースクールー之江



公園の遊具でチャレンジ。試行錯誤しながら登ることで達成感を味わう。



落ちていた柿を発見。匂いはどうかな？ 恐る恐る嗅いでみる。



大きな岩ではジャンプをしたり舞台になったり様々な遊びが展開。



ヤモリのために捕まえたコオロギ。逃がさないようにみんなで協力。



公園の端で見つけたセミの抜け殻やキノコは子供の大事な宝物。



小川ジャンプで力試し。以前は失敗して靴を濡らすこともあったが、今回はできた！

活動のポイント

- 1回目 ● 久しぶりの公園への散歩。飼っているヤモリの餌探しとどんぐり探しに、アスレチックのある公園へ。固定遊具では自らチャレンジする姿が見られたり、保育者が本気になって餌となるクモやコオロギを探している姿に子供たちもだんだん巻き込まれていく姿が見られた。
- 2回目 ● 秋の自然を探しに行こう！と出かけると、子供たちが柿の実を見つけ「たべられるのかな？」と匂いを嗅いでいた。「いいにおい」「くさい」と感じ方は様々。植え込みに潜り込み夏の名残りのセミの抜け殻をたくさん見つけた子は、嬉しそうに袋に入れて大切に持ち帰った。
- 3回目 ● 少し遠い公園まで足を伸ばした散歩。公園の固定遊具は他園が使っていたために、広場やピオトープの周りで自然遊びが始まった。大きな岩を舞台にして大きな声でセリフを言う子やジャンプして飛び降りる姿も。小川を飛び越えて遊び、力試しを楽しむ子供たちの姿が見られた。

練馬区 ライクキッズ株式会社 | にじいろ保育園石神井町



子供たちが遊べるようにと、工作材料や道具を持っていった。



公園への道中でも自然体験。アゲハの幼虫を突くと「ツノがでた！くさい！」と驚いた子供たち。



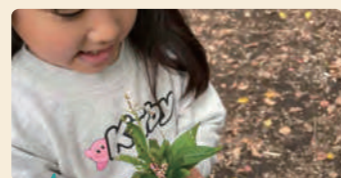
散歩中のおじいさんに教えてもらい、紅葉の種のプロペラを飛ばして遊ぶ子供たち。



虫好きな保育者がカブトムシを見つけると子供たちは興味津々。



子供たちの声でどこに行くかを決めながら進んでいく。



通り過ぎる予定だったなんでもない場所で遊びが始まる。遊びを作り出す子供たちの姿。

活動のポイント

- 1回目 ● 子供たちが各自工作したお弁当を持参したり、工作用の道具を持っていった。初めは保育者が用意した物で遊んでいたが、だんだんと子供たち自身で自然遊びが広がっていった。虫・どんぐり・キノコ等を発見しながら遊ぶ子どもの姿だった。
- 2回目 ● 公園への移動中も、何かを見つけては立ち止まる子供たち。アゲハの幼虫を触って、ツノが出てきて驚いたり、公園では小さな自然物を見つけ虫眼鏡で観察。バッタを見つると、みんなで協力して捕まえたり、子供たちの発見や気づきに保育者が寄り添い、子供たちの興味も広がっている。
- 3回目 ● 公園内目的地へ行く途中で、おじいさんから紅葉のプロペラを教えてもらい、その場で全員遊びが始まった。目的地に行くのをやめ、その場で遊び始めた子どもに合わせる形での活動となった。特別何かがある場所ではなかったが、子供たちは遊び込んでいたことに、保育者も驚いていた。

小金井市 学校法人村田学園 | 小金井けやきの森認定こども園



コガネムシに興味津々。捕まえないけど触れない様子の子供たち。



駅前を通ると興奮気味の子供たち。地域環境を感じる散歩も子供たちにとっては楽しいひと時。



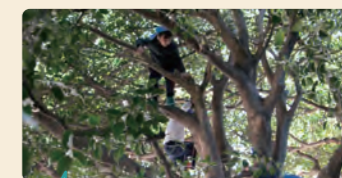
3つのグループに分かれての遊び。広い公園での安全管理の工夫。



トンボや蝶をバケツを持って追いかける子どもたち。



広い公園で、のびのびとトンボを追う子供たち。



木登りがしやすい樹木に子供たちが集まる姿。

活動のポイント

- 1回目 ● 自然豊かな園庭での活動。園庭の木に止まっていたセミを見つけてみんなで眺めたり、コガネムシを見つけて集まってくる姿があった。虫には興味があるが、触れることには抵抗がある子供たち。バケツでどうにか捕まえようとする子供たちの試行錯誤が見られた。
- 2回目 ● 久しぶりに園外に出ての散歩。商店の前を通ると家族と来たことを口々に話す子供たち。広い公園では朝の会で決めていた遊びたい遊びをし始めた子供たち。バッタやトンボを追いかけたり、木の実拾いをしたり、のびのびと子供らしい姿が印象的だった。
- 3回目 ● 2回目と同じ公園へ行き、混雑する公園内で人数把握するために3つのグループに分かれて遊んだ。木登りチーム・秋の自然探しチーム・虫探しチーム、保育者が連携しながら子供たちを見守ることで、安全に子供たちの思いを満ちた活動となった。